

平成 29 年度 第 11 回柿崎区地域協議会次第

日時：平成 30 年 2 月 20 日（火）午後 2 時
場所：柿崎コミュニティプラザ ホール

1 開 会

2 副会長あいさつ

3 会議録署名委員の指名

4 協議事項

(1)柿崎区地域協議会長の選任について

(2)自主的に審議する事項の提案について

・「道の駅柿崎」の設置について

(3)「柿崎区保育園にかかる課題と今後について」を検討する委員の選出について
(仮称)「みんなの保育園を考える会」

5 報告事項

(1)地域の交通を考える会からの報告

6 その他

・第 12 回柿崎区地域協議会の開催日について

日 時：平成 30 年 3 月 20 日（火）午後 2 時から

会 場：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

・「まちづくりフォーラム」（2 月 25 日開催）について

・「地域活動フォーラム」（3 月 4 日開催）について

7 閉会



様式1

※ 提案番号	
--------	--

「自主的に審議する事項」提案書

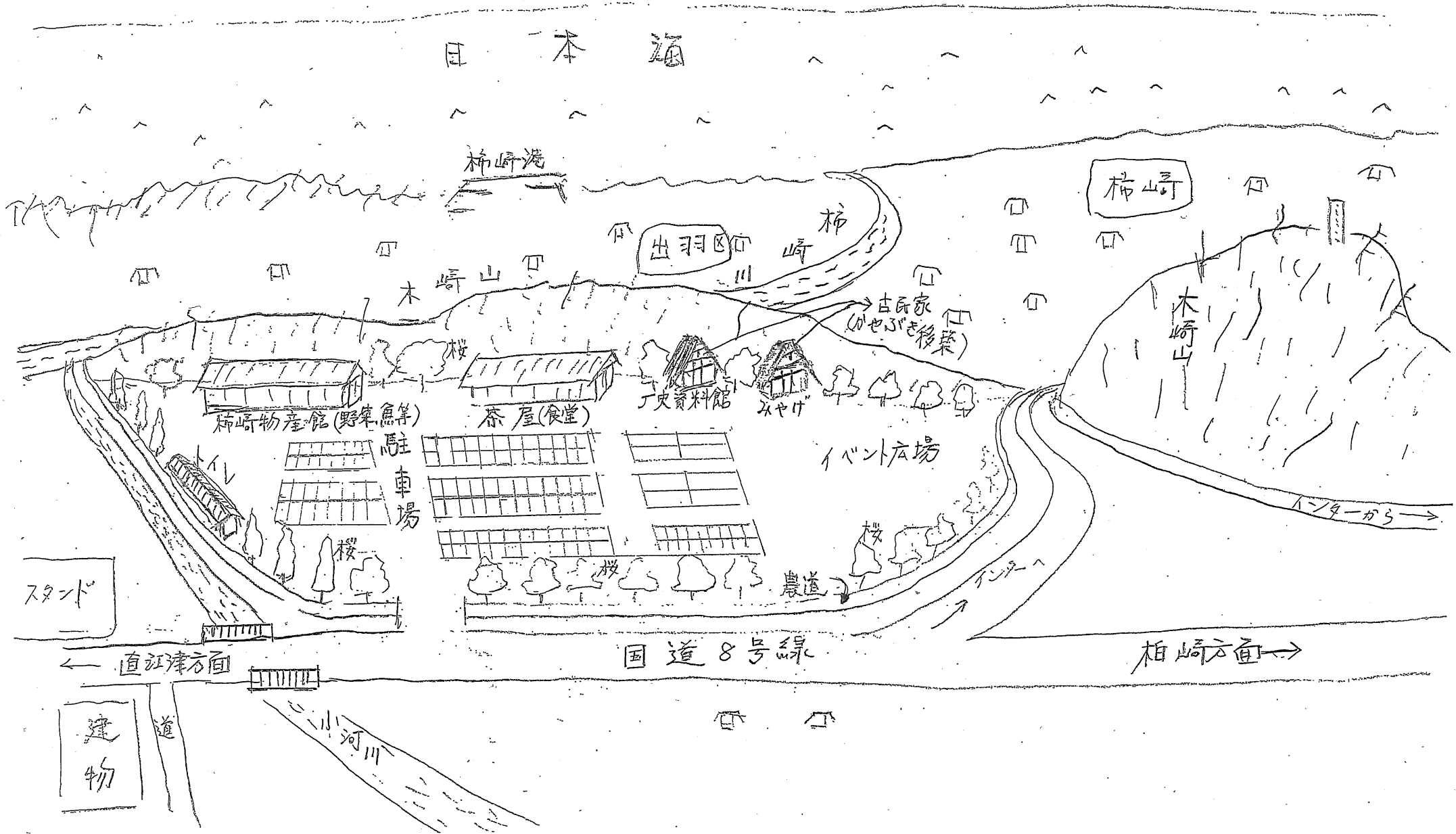
地域協議会委員氏名		渡 邊 征 雄
審議提案事項	件 名	「道の駅柿崎」の設置について
	内 容	<p>(現状) 柿崎町が上越市に合併して12年が過ぎた。新幹線が開通し、上越市は新幹線を利用した観光を目指して中心市街地活性化計画に力を注いできた。しかし、北陸新幹線の名の通り上越市は通過点となっている。翻って市の北の果て柿崎は合併した13区の中で最も寂れた。柿崎区や頸北地域に活気がない。直江津から柏崎までの国道及び高速道乗降車に、いつでも気軽に立ち寄り楽しめる休息施設がない。</p> <p>(改善案) 柿崎を西から東へ貫く国道8号線は、1日の通行量が推定で8,000台～9,000台ある。木崎山の南側約16,000平方メートルを確保して駐車場(150台)を造成し、道の駅を設置する。国道及び柿崎インター利用車が休憩して柿崎の地物野菜や柿崎港で獲れる魚介類の販売や軽食のできる施設、柿崎の観光案内の施設を設置する。また、木崎山は柿崎の中心部からも近いのでイベント広場を利用して、例えば、春は観桜会、夏は盆踊りなど、賑わいを、道の駅利用者と交流のできる場としても活用する。</p> <p>(効果) 霊峰米山を背景とした景観で休息し、柿崎の観光、歴史、特産品をPRできる。国道8号線の往来車及び近隣区民の交流の場となる。柿崎のPRと観光(名所)にもつながる。地域活性化の拠点となる。</p>
	区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 地域における懸案事項への対応に関すること <input checked="" type="checkbox"/> 地域の振興に関する課題への対応に関すること <input type="checkbox"/> 新市建設計画の計画的かつ円滑な推進に関すること <input type="checkbox"/> その他()
提案年月日	平成30年2月5日	



※参考

- 国道8号線の通行量調査結果 調査者 渡邊征雄 (計数カウンターにて)
調査日 平成30年2月1日 天候 晴れ
調査時刻 午前10時～午前11時 (通勤時間帯は除いた)
調査場所 国道8号線小河川橋西詰
調査結果 上下車両合計 818台 (うちバイク1台) 通行人4名
- 木崎山南麓面積 16122.36㎡ (柿崎総合事務所建設係より)
- 道の駅の登録申請は、国土交通省へ毎年8月に行う。(年1回)

「道の駅 柿崎」概略図



道の駅説明補助資料（国土交通省資料より）

○ 道の駅施設の意義

- ・道路利用者の休憩、情報提供、地域連携の場として、制度発足から20年、全国で約1000を超える施設が登録されている。
- ・当初は、通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、近年は、農業、観光、福祉、防災、文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取組みがなされています。
- ・これからは、「地域の拠点機能の強化」と「ネットワーク化」を重視し、「道の駅」自体が目的地となるよう育てたい。

○ 道の駅の整備（特定交通安全施設整備事業）

- ・道路管理者が行う整備
駐車場、トイレ、道路情報ターミナル等道路施設の部分が対象
- ・道路管理者が行わない部分
地域振興施設、観光施設、文化教養施設、休憩所等

○ 道の駅の設置間隔

- ・駅間は定めるものではないが、概ね10～20km程度の間隔が理想的であるが、地域活性化の拠点としても位置づけられるので、個々のケースで検討する。

○ 基準

- ・主要幹線道路でかつ、概ね1日5000台以上の交通量がある路線を原則的に対象としている。

○ 道の駅の事業（登録）の進め方

- ・「道の駅」としての要件に適合する設置者である市町村等（申請者）が道路管理者を経由して、建設省に登録申請書を提出のうえ登録される。
- ・登録の時期は毎年8月期の年1回を予定し、約2か月前に申請する。
- ・登録の承認は、国土交通省道路局長です。

○ 「道の駅」の登録に必要な条件

- ・基本的に、駐車場20台以上、トイレ10器以上、電話（24H利用可能）の設置。

地域の交通を考える会

第1回 第2回委員会 議事録

(主な意見)

- ・膨大な補助金額を見てしまうと、現在バスが通っていない下黒川地区や七ヶ地区にバス路線を通すのに疑問を生じる。バス以外の交通手段を検討しなければならないのではないかと。
- ・バスではない交通を考えた時に対応する補助金はあるか
- ・補助金が必要なのか、受益者負担が大前提だと思う。
- ・ターゲットは、車の免許を返納してから、動けなくなるまでの人(75～85歳くらい)ではないか。
- ・免許がない人は車を持たないのだから、車に係る経費分を交通費にあてられるのではないかと？

(次回までの調査事項)

- ・スクールバスを一般利用者が利用している。また路線バスで生徒が通学している。運行経緯や実態を調べたい。
- ・市営バス(安塚、大島、牧、頸城、名立)及び新井タクシー、アイエムタクシーの運行経緯や実態を調べたい。
- ・次回までに、黒岩線、水野線、上直海線の乗降調査を行い、その結果や感想等を報告する。

平成28年度路線別バス運行対策費補助金一覧(柿崎バスターミナル～)

系統番号	路線名	経路	運行回数	平均乗車密度	経常費用	経常収益	経常欠損	収支率	国県補助金	市補助金	
1	浜線	マルケバスセンター～柿崎バスターミナル	7.3	1.5	38,825,483	9,936,025	28,889,458	25.5	16,486,000	12,403,000	国庫補助路線
5	柿崎黒岩線	柿崎バスターミナル～黒岩	6.0	0.5	8,622,336	772,593	7,849,743	8.9	6,402,000	1,446,000	国庫補助路線
28	山直海線(2)	柿崎バスターミナル～村屋	4.0	3.1	10,122,165	5,077,186	5,044,979	50.1	2,264,000	2,780,000	県単補助路線
60	山直海線(1)	柿崎バスターミナル～尾神	5.0	1.9	18,484,944	5,103,072	13,381,872	27.6		13,381,000	市単補助路線
65	柿崎上直海線	柿崎バスターミナル～上直海	2.0	0.1	1,000,061	21,812	978,249	2.1		978,000	市単補助路線
66	増田線(2)	柿崎バスターミナル～森本	4.0	0.2	7,859,915	338,069	7,521,846	4.3		7,520,000	市単補助路線
67	柿崎水野線	柿崎バスターミナル～水野	3.0	0.2	3,267,025	130,062	3,136,963	3.9		3,136,000	市単補助路線

平均乗車密度: 収入 ÷ 走行キロ ÷ 平均賃率